

はじめに

区民の皆様には、日頃より、鶴見区政の推進に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。鶴見区は、戦後、日本の高度経済成長を支えてきた臨海部の産業の発展とともに就業人口が増加し、それとともにまちも発展してきました。近年では、日本の重工業を支えていた工業の事業所数は、ピーク時の3割に減少しましたが、工場跡地の住宅への転用が進んだこと等で、人口は現在 29 万3千人（市内 18 区中第3位）、世帯数は約 14 万1千世帯（同第2位）を超えました。また、横浜市が発表した将来推計人口によれば、鶴見区は 2042 年まで人口が伸び続け、18 区の中で最後まで人口増加が続くと見込まれています。

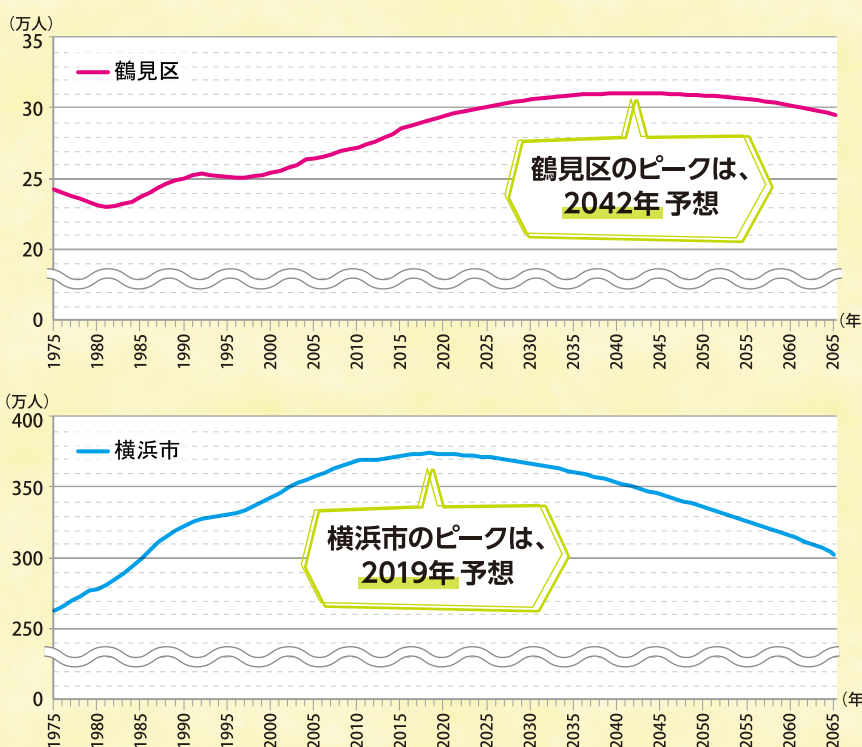
新型コロナウイルス感染症の影響によって、人との接触や移動を抑制する「新しい生活様式」を踏まえて、調査環境は大きく変化しましたが、統計データの取得にあたっては、将来にわたって継続的に比較できるよう、可能な限り期日を延期等せず、同一サイクルで行ってまいります。

本書では人口や産業をはじめ、生活に関連する様々なデータをもとに、鶴見区の特徴をまとめています。これまでの鶴見、そして、これからの鶴見を考えていただく際の資料として御活用いただければ幸いです。

最後に、発刊にあたり、貴重な資料を御提供いただきました関係諸機関をはじめ、ご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

令和3年2月 鶴見区長 森 健二

COLUMN



鶴見区の人口は 2042年がピーク!?

鶴見区の総人口は、平成12年(2000年)頃から増加し、平成30年(2018年)には29万人を突破しました。横浜市の人口は、平成31年(2019年)頃まで増加し、その後減少すると予測される中、鶴見区は令和24年(2042年)に人口のピークを迎えると予測されています。

※2019年以降は、2015年の国勢調査に基づいた推計値

人口の統計情報はP4以降に掲載しているよ!



資料:行政区の人口の推移、横浜市将来推計人口(政策局)